

ぞうさんの おはな

森の広場で ぞうさんが、わにさんと かばさんと
いっしょに なかよく あそんで いました。

わにさんが、言いました。

「ぼくの 口、大きくて いいでしょう。」

すると、かばさんも 言いました。

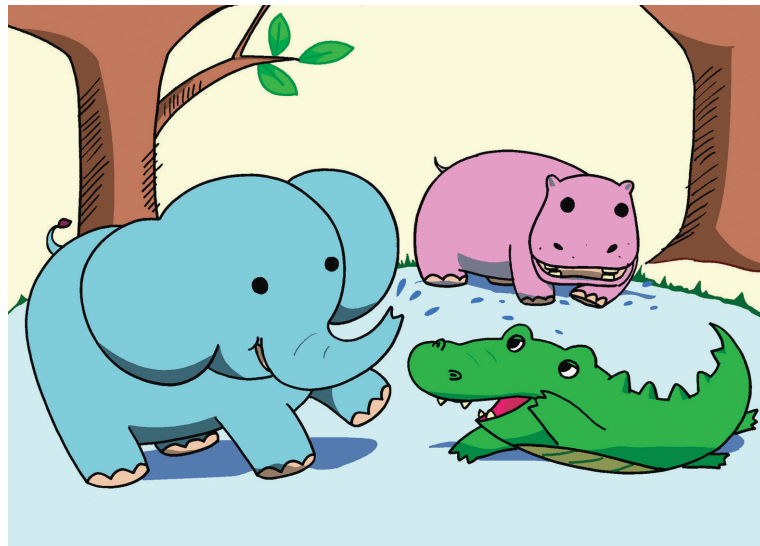
「ぼくの 口だって 大きいよ。」

すると、ぞうさんは 言いました。

「いいなあ。ぼくの 口は、そんなに 大きく ないよ……。」

わにさんと かばさんは、

「でも、ぞうさんには、すてきな 長い おはなが あるじゃない。」
と 言いましたが、ぞうさんは、



ぞうさんの おはな

「どうして ぼくは、みんなと ちがうのかなあ。」
と、^{かんが}考えて しまいました。

ぞうさんは、とぼとぼと 家^{いえ}に 帰^{かえ}りました。

ぞうさんの ようすを 見^みて、お母^{かあ}さんは、長^{なが}い
おはなで やさしく だきよせ、

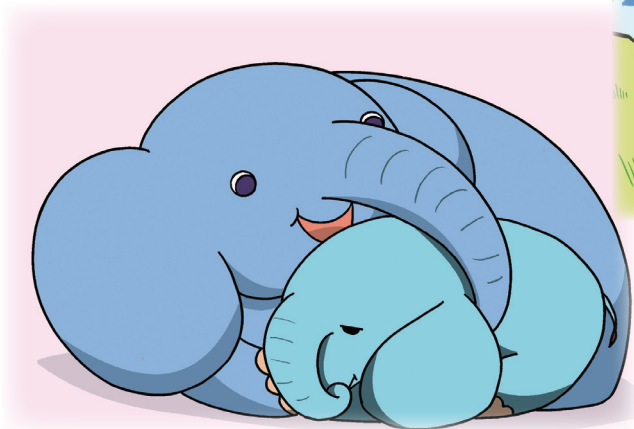
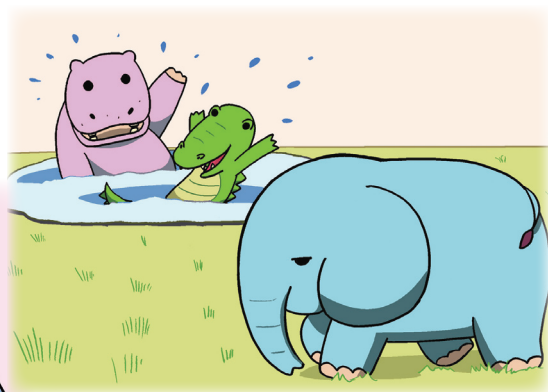
「ぼうや、どうしたの？」

と、たずねました。ぞうさんは、うつおいたまま

お母^{かあ}さんに 言^いいました。

「ねえ、母^{かあ}さん、どうして ぼくは、おはなが 長^{なが}いの。わに
さんや かばさんと 同^{おな}じ、大^{おお}きな 口^{くち}が よかったよ。」

お母^{かあ}さんは、もう一^{いち}ど おはなで ぎゅっと だきよせ、答^{こた}
えました。

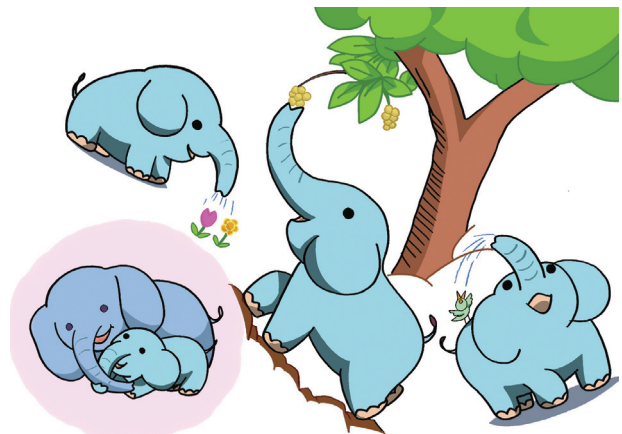
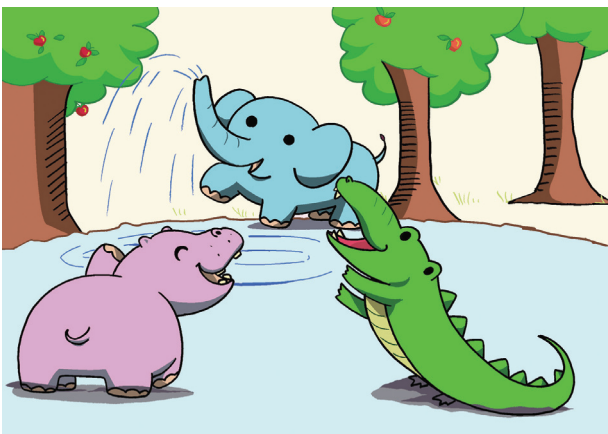


「ぼうや、母^{かあ}さんの おはなを 見てごらん。母^{かあ}さんの お
はなも 長い^{なが}のよ。この おはなで、木^きのみを とったり、
水^{みず}あそびを したり、いろいろな ことが できるでしょう。
いいことが たくさん あるのよ。」
ぞうさんは、お母^{かあ}さんを 見て、にっこり しました。

つぎの 日^ひも、ぞうさんは、わにさんと かばさんと あそ
びました。ぞうさんの とくいな おはなの シャワーで、水^{みず}
あそびを しました。しばらく あそんで いると、木^きに 大^{おお}
きな みが なって いるのを 見^みつけました。

「あの 木^きのみ、おいしそうだね。」
「食^たべたいな。」

わにさんと かばさんが 言^いいました。すると、ぞうさんは、
長い^{なが} おはなで 木^きのみを とり、わにさんと かばさんに



ぞうさんの おはな



一つずつ あげました。

「ぞうさん、ありがとう。」

「きみの おはなは、いろいろな ことが できるんだね。」

ぞうさんは、大きく 大きく おはなの シャワーを ふき
上げました。

(上田 郁子 作・江野沢 柚美 絵)

